

4 講師レポート(1)

NPO活動を生かしたまちづくり

四日市大学総合政策学部 教授 松井 真理子
(NPO法人市民社会研究所代表・四日市NPOセクター会議議長)

1 はじめに - NPOと私

私とNPOとの関わりは、1992年から1994年まで滞在していたイギリスで、多様なNPOが社会のあちこちで活躍している姿を目の当たりにしたことから始まる。当時日本で公務員をしていた私は、行政ではなく、市民が公共的な思いをもって自発的に動くことで、社会を支え、場合によっては社会を変えていくことを実感した。市民の力量の大きさを感じたとき、公務員として、これまでの自分や自分の周囲の同僚たちの思い上がりに気付くとともに、これまでのような市民観に基づく政策は変えていかなければならないと、強く思うようになった。

その後、1995年に北京で開催された「第4回世界女性会議・NGOフォーラム」に参加したことでさらにその意を強くし、1998年には自らNPOを立ち上げ、1999年からは公務員も辞めてそのNPOの専従事務局長として2年間働き、2001年には縁あって四日市に来ることになって、NPOの研究と活動三昧の毎日という、NPO色の強い人生を歩んでいる。



講義する松井教授

なぜ私がNPOに関わっているかといえば、結局、私自身の自己実現の場がそこにあるからである。自分が本当にやりたいことは、それ以外の場では困難なのである。周囲を見渡せば、私同様「自分の力を生かして、公益のために何かやりたい」と考えている市民がかなりいる。これらの人々に自己実現の場を与え、輝かせることがまちづくりの鍵であるが、これができるのがNPOだと考えている。

行政は、近年「市民主権」「市民主体」というようになったが、その割に市民の力を軽視し、やる気のある市民の気持ちを逆撫でするような対応が気になる。市民が力を発揮することが、地域の公共領域にどれだけ寄与することになるか、頭ではわかっているつもりでも、実際にはわかっていないとしか思えない事象が多い。

そこで本稿では、NPOがなぜ大切なのか、その公共的な意義を少し理論的に論じてみたい。NPO

Oが公共領域で果たす役割を、感覚的にしか捉えられていないことが、貧困なNPO政策や市民への対応の根底にあると思うからである。そして、NPOの活動を生かすことが、まちづくりにどのようなメリットを発揮するのか、実践例を通じて紹介することにしたい。

2 NPOの特色と存在意義

(1) NPOとは

NPOとは何を指すのか、未だによく理解されていないことが多い。諸説はあるが、筆者は、次の5つの要件全てに合致する団体であると考えている。従って、これに合致するものであれば、法人格の有無や、NPO・社団等の名称は問わない。

公益性

公益への寄与、社会貢献を目的とする。NPOとして非常に重要な要件である。私的な趣味の会や同窓会などは、この意味で除外される。

非営利性

営利を目的とせず、収益があっても個人に配分せず、本来活動のために再投資する。但し、行政との委託契約で、適切な額の人件費を要求することは、営利・非営利とは無関係に、必要経費として当然のことである。

非政府性

政府から制度的に独立した、民間による設立・運営でなければならない。人件費・事業費など全て丸抱えの政府・自治体の外郭団体や、自治体職員が事務局を担っている諸団体などは、NPOとは言い難いものがみられる。

自発性

有志によって自発的に設立・運営されていること。地縁団体等の中には、参加や運営が義務的となり、NPOとは言い難いものがみられる。

組織性

組織としての継続的な運営体制をもつこと。NPOの中には、組織とは名ばかりで、実際には代表一人が運営しているものもみられる。

(2) NPOの特色

NPOは、行政や企業と比べて何が違い、どのような存在意義があるのか。そのことを認識しておくことは、とくに行政にとっては重要である。以下の2つの特色は、NPOにとってその本質ともいえるものである。

市民性

NPOの特色の第一は市民性である。NPOの構成員は、例えば障がい者団体や子育て関連の団体の場合など、ほとんどが問題を抱える当事者か当事者の家族である。このことは、行政や企業がサービスを提供する場合は、サービスの供給主体と客体との間に明確な立場の違いがあるのに対し、NPOの場合は主体と客体との同質性が極めて高いことを意味する。従って、NPOは市民の課題に敏感で、市民の課題を当事者として深く認識できる立場にある。NPOの立脚点は市民にあり、市民の立場から市民が本当に求めているサービスを提供できるのである。

社会変革(改良)性

NPOの市民性は、市民がNPOを設立するとき、当事者として何らかの問題意識が動機にあることにつながっている。ごみ問題、子どもの不登校、一人暮らしの高齢者の問題など、社会の現状に問題意識があり、行政が何かしてくれるのを待つのではなく、自分たちで何とかしな

ければという思いが必ずある。従ってNPOは、社会をもっとよくするために活動するという社会変革（改良）性をその本質にもっている。企業が社会貢献活動をする場合、それは「今の社会を変える」という動機は必要ではない。NPOの中でも、公共サービス提供型ではなく、男女共同参画や平和などアドボカシー型といわれるNPOの場合は、さらにその性格が明確になる。

（3）NPOの機能

（2）で述べた特色に基づき、NPOには次のような独自の機能がある。NPOには、行政、企業には果たすことのできない多様な機能があり、その存在意義は極めて高いことを理解するべきである。

機 能	内 容
公共サービス提供機能	政府や企業と比べて、当事者性の高い市民の立場により、質の高いサービス、排除されがちな人へのサービス、低コストのサービス等が提供できる。
イノベーション機能	これまでの枠にとらわれない、市民の自由な立場から、新しいアイデアや事業を生み出すパイオニアの役割。
アドボカシー・社会変革機能	アドボカシー型のNPOをはじめとするNPOは、問題意識に基づいた政策提言を行ったり、市民の立場に立ったサービス提供を通じて社会変革を推進する。
社会の多元性表現機能	価値観が多様化する中で、それぞれの立場を代弁するNPOが多数輩出することにより、社会の多元性や多様性を促す役割がある。
コミュニティ建設・民主化機能	地域社会の中に、市民に立脚するNPOがあることによって、人々のボランティア参加を促し、政治的・社会的参画意欲を高め、民主化を促進する役割がある。

* サラモンの分類を基に松井作成

3 NPO活動を生かしたまちづくりの新しい動き

2でNPOの存在意義について述べたが、それがまちづくりの現場では、どのように生きているか、筆者の実践のなかから2つの事例を紹介する。

（1）NPOによる指定管理

四日市市なやプラザは、四日市市民の市民活動と生涯学習活動の拠点施設である。2006年4月から指定管理に移行し、筆者が代表を務めるNPO法人市民社会研究所が代表となって、4つのNPO法人が共同管理している。

なやプラザの運営の基本方針の第1は「市民に立脚した運営」である。これに関して、「市民に最も身近な存在であるNPOの共同管理である特性を生かし、市民にやさしく、市民のニーズに敏感なサービスを提供する。」とうたっている。

具体的には、まず昨年4月に指定管理が始まった段階で、会議室の従来の申し込み方法を変更した。これまでは会議室を使用できるのは、市役所にあらかじめ登録した団体（しかも市役所が登録の承認をする）に限定されていたが、そのような制約は直ちに撤廃した。また、申し込みをする場合は、銀行で事前に使用料を払い込み、その証明書を受付に持参しなければならなかったが、これも受付で現金を払えばその場で会議室が借りられるようにした。

窓口の対応は「親切・丁寧」を徹底させ、年2回の利用者アンケート調査と、「サービス評価委員会」という外部評価委員によるサービス評価も行っている。これらの結果、2007年1月末現在で、利用者数は昨年度比で14.1%増加、会議室使用料売上げは、昨年度比で78.4%もの増加を示している。市民の立場に立ったNPOが、いかに市民向けサービスに適した存在であるかがわかるであろう。

(2)「人財ポケットよっかいち」の創設

筆者が議長を務めるNPOの連合組織「四日市NPOセクター会議」は、平成18年度、内閣府の支援を受けて「シニアまちづくり人材バンク構築事業」に取り組んだ。これは、団塊の世代の大量退職を目前にして、四日市の企業の退職者などを地域の貴重な人的資源として位置づけ、地域の活力となるよう人材バンクを構築するものである。

人材バンク構築に先立ち、これまで企業人であった人々の地域デビューのための「まちづくり人材養成講座」を実施したところ、約400人の参加があった。同時期に類似の趣旨で行われた県関係の事業では、予算を倍以上もかけたにもかかわらず、参加者数はこれよりかなり少なかったと聞いている。

システムスタート当初に、登録者の間で、自分たちが主役になれるしくみのネーミングを話し合ったところ、実に熱の入った話し合いになり、「人財ポケットよっかいち」という名前が新たに決まった。

人財ポケットよっかいちは、9名の運営委員と3名の事務局で運営しているが、毎月1回の運営委員会は熱気にあふれている。単に地域のニーズに応じたバンクであることに留まらず、自分たちの独創的なまちづくりのアイデアを積極的に市民に説明する場を設け、賛同者が集まって新しい市民活動を生み出すしくみも本年3月からスタートすることになった。

彼らがなぜ生き生きしているかといえば、自分たちの思いを早く形にできるからである。市民の思いはスピードが重要である。行政が「持ち帰って検討」し、1年も2年も待たされるか、縦割り行政のしくみの中で各課の調整のうえ結局棚上げされるのでは、決して市民は輝かない。



「人財ポケットよっかいち」の活発な話し合い

4 まとめ

以上述べたように、NPOは、市民の立場に立ち、地域をよりよくするために活動し、意欲ある市民が活動する場を提供する。もちろん、NPOだけでまちづくりができるわけではなく、行政とNPOとの協働は非常に重要である。

これまで行政は、NPOがなぜ公共領域において重要な役割を果たすのか、あまり理解していたとは言いがたい。NPOの存在意義をより深く理解した上で、NPOの力をまちづくりにもっと生かすためには、行政として何が必要か、よく研究していただきたいと考えている。